

北九州市立水環境館 「入場者100万人」達成記念式典

平成19年1月28日「水環境館」は、記念すべき入場者100万人を達成致しました！多くの市民の皆様から寄せられた提案の中から、「川の中が覗けたらいいなあ」という女子中学生のユニークな発想がもとになり、川の中に“窓を作る”というアイデアから、この水環境館は誕生しました。

そして紫川の中を真横からじっくりと観察できる河川観察窓は、水中を泳ぐ魚たちや様々な生き物の観察だけにとどまらず、海の水と川の水の境目「淡塩境界面」、いわゆる「塩水くさび」という自然現象も目の前で観察できる全国でも珍しい施設となりました。

それから紫川を中心に、人々が「集う」「学び」「憩う」をテーマに、自然を題材とした手作り工作や、幼稚園や小学校の社会見学、自然環境の企画展などにより市内外を問わず多くの方々に来館して頂きました。

そしてこの度、100万人目の入館者となられた中間市から来られた前田さん家族には認定書と記念品を贈呈いたしました。

これからも皆様に愛される施設を目指して努力していきたいと思います。

北九州市立水環境館「入場者100万人達成」記念式典



用水路を遡上して、田んぼ



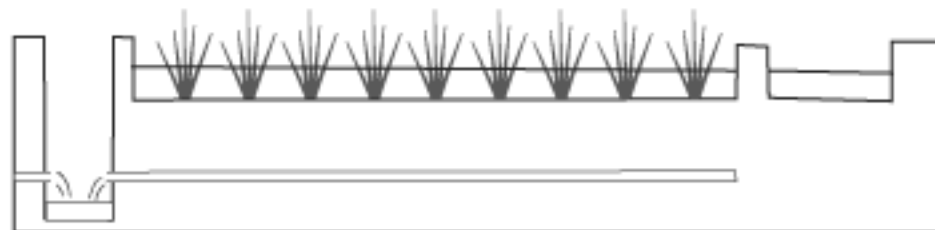
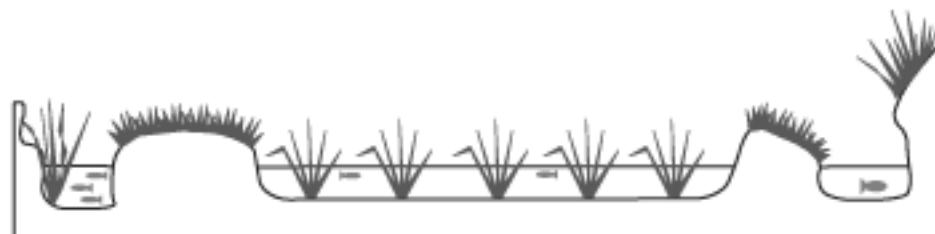
「用水路」とは農業や水道、工業のために水を運ぶ水路で、田んぼとそこに水を引くための農業用水路でたくましく生き物たちが暮らしています。

●稲作のサイクルと水の動きに適応した生き物の生活を知ろう

季節		春		夏		秋		冬	
稲作		代かき	田植え	水田	中干し	水田	落水	稲刈り	
水	田	↑	↑	↑	↓	↑	↓	晩秋から冬の間、田んぼは乾いた状態に保たれるため、田んぼと用水路の間に水の動きはありません	
	水路	↑	↑	↑	↓	↑	↓		
生き物の生活		<ul style="list-style-type: none"> ・田に水が入り始めると、水路からメダカやドジョウ、ナマズが水田に移動してきて産卵、稚魚が成長する。 ・水田や用水路は水の流れが緩やかで水深が浅く日当たりがよいので、藻類などの植物プランクトンやミジンコなどの動物プランクトンが大量発生。オタマジャクシ、ヤゴ、魚の稚魚など多くの生き物の命を支える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・田から水が抜かれる頃に魚は水路や河川へ戻る。 ・水中で成長したオタマジャクシ、ヤゴはカエル、トンボになっても稲の害虫を食べてくれる。 ・田の水を落とすと土が乾き、畦からミミズやコオロギが移動してくる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈りで出たワラを土中に鋤込むと、微生物やミミズの働きで栄養分として分解され翌春に備えられる。 ・稲刈り後の田ではアキアカネなどが産卵、越冬のため渡ってきた冬鳥たちも畦の雑草や落ち穂、ミミズ、昆虫などをついばんだりする。 ・魚は水路や河川の深いところなどで冬を越す。 	

●田んぼと用水路、行き来…できるところ、できないところ

農業の近代化、機械化に伴い圃場整備が進んだ結果、田と用水路の構造が変化し、魚が自力で移動できなくなった場所が多くなりました。田と用水路が畦だけではなくコンクリート護岸によって分断されたり、遡上能力を超える高い落差や堰による障害のためです。また、単に移動できないという問題だけでなく、用水路をコンクリートで固めて直線化したことによって、流速が速くなったり水際の植物が消失して、メダカやタナゴなどが生息しにくい環境になったこともこれらの魚が減少している原因と考えられます。最近はこのために配慮して、移動のための水田魚道や小落差型の水路など魚に優しい工夫をした圃場整備もされています。



く、用水路をコンクリートで固めて直線化したことによって、流速が速くなったり水際の植物が消失して、メダカやタナゴなどが生息しにくい環境になったこともこれらの魚が減少している原因と考えられます。最近はこのために配慮して、移動のための水田魚道や小落差型の水路など魚に優しい工夫をした圃場整備もされています。

田んぼに入る魚を知る!の巻

引く目的で人為的に作られた大小の水路のこと。
生きていく魚たちの生活を少しだけそっとのぞいてみよう。

●田んぼと用水路を行き来する代表的な魚を知ろう

メダカ (メダカ科) 大きさ…約4cm

昼行性で水田や用水路など流れの緩やかな水辺を好む。プランクトンや小さな落下昆虫を食べる雑食性。産卵期は長く4~8月まで続き、早朝に産卵する。

ドジョウ (ドジョウ科) 大きさ…約12cm

水底の泥土中によくもぐる。雑食性。

代かきと同時に周囲の用水路から水田に遡上し、夜間に産卵する。

田から水を落とすまで成魚、稚魚ともに水田内で生活する。

ナマズ (ナマズ科) 大きさ…約50cm

湖沼や河川、大きな用水路などに生息し、貪欲に小動物を捕食する夜行性の肉食魚。

田植え後の水田などに大挙して侵入し、雄が雌に巻きついて産卵する。

5cmに満たない小さな魚から50cm以上にもなる大きな魚まで様々ですね。

こんな風に行き来するのは魚だけではないから、他にどんな生き物がいるか調べてみるとまた新しい発見があるかもしれません。但し畦や田んぼを踏み荒らしたり勝手に入らないように気をつけよう。観察は必ず大人の人と一緒にこね。

○ ○ ○ スタツコの飼育日誌 ○ ○ ○

「昔は雑魚、でも今は…」

多くの生き物達にとって日一日と暖くなるこの季節に繁殖の時期を迎えます。

水辺がまさに生命の活気に満ちあふれるこの季節、私もついつい水辺に足を運ぶ回数が増えてしまいます。私にとって特にこの時期のお目当ては「タナゴ」です。タナゴは淡水二枚貝に産卵する面白い繁殖生態で知られますが、私のお目当ては雄に現れる婚姻色を観察すること。雌の気を引こうと目一杯の「おしゃれ」をした雄の体色はなんとも言えない色っぽさがあります。しかもこの婚姻色は水槽飼育ではなかなか自然で見られる程の色にはならないのです。まさに自然環境の中でのみ創られる自然の芸術と言えるでしょう。

ところが近年、生息環境の悪化により日本産のタナゴ14種のうちほとんどの種類が絶滅の恐れがあるとされています。かつては雑魚の代表格だったタナゴは現在とても貴重な生き物になってしまったのです。野外でのタナゴ観察の際にも地元の年配の方から「昔は沸くほどおったがね〜、今は少なくなったね〜」という言葉をよく聞きます。実はタナゴを探して色んな水辺に足を運んでいると気づくのですが、

カラーでお伝えないが残念!!
繁殖期もあつた雄は
なれとも言えない
低い雄さも
放ちます。



写真はカゼトゲタナゴの雄

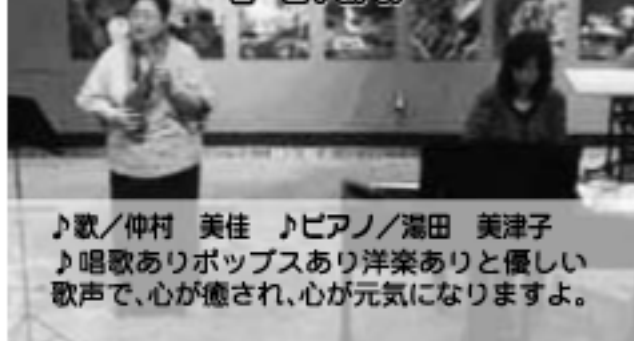
田んぼに水を引く用水路に多くすんでいることがわかります。またある地方では農業用のため池にすんでいるものもいます。人間が稲作を始めたときに田畑に水を引くために作った水路やため池という「半自然」の環境に上手く適応して繁栄してきた生き物は多くいますが、タナゴもその一つだったのです。しかし最近では農家の高齢化と後継者不足により、水路の定期的な維持管理（水路の泥上げや草刈など）が難しくなっています。そのため維持管理の手間が省けるように田んぼが整備され用水路はコンクリート三面護岸となりかつて多くの生き物たちを育んだ半自然の環境は生き物が住み難い環境へと形を変えてきています。

つい最近も久しぶりにある用水路にタナゴの観察に訪れたときのことです。タナゴとの出会いに胸を躍らせながらその場所に着いてみると、今まさに水路はショベルカーにより掘り返されコンクリートの排水路と化している最中でした。

水環イベント
情報コーナー1

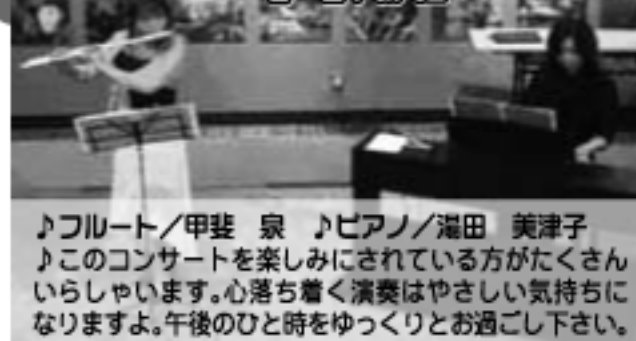
水曜コンサート (14:00~15:00) (多目的ホール)

3月7日(水) 歌とピアノの奏べ
~春一番Part1~



♪歌/仲村 美佳 ♪ピアノ/瀧田 美津子
♪唱歌ありポップスあり洋楽ありと優しい
歌声で、心が癒され、心が元になりますよ。

3月21日(水) フルートとピアノの奏べ
~春一番Part2~



♪フルート/甲斐 泉 ♪ピアノ/瀧田 美津子
♪このコンサートを楽しみにされている方がたくさん
いらしゃいます。心落ち着く演奏はやさしい気持ちに
なりますよ。午後のひと時をゆっくりとお過ごし下さい。

水環イベント
情報コーナー2

せせらんど工作

どなたでも無料で
ご参加いただけます。

毎週土曜日
13:00~15:00
実施中!

3月 3・17日(土)
「紫川にすむ生き物紙工作」



水環境館の周りでユリカモメを見たことはないですか?冬に大陸からやってきて越冬します。この時期はたくさんのユリカモメに会えますよ。3月の紙工作はユリカモメが、大きな目玉がかわいい魚、トビハゼを作ります。

3月 10・31日(土)
「牛乳パック工作~カラフルボール」



牛乳パックにカラーテープを巻きつけ、丸いボール型に組み合わせて作ります。手づくりボールの出来上がり!

◆3月のイベント (各13:00~15:00 多目的ホール ※いずれも要予約)



ブリザーブドフラワーとは、生花を特殊加工した花のことです。女性の方に大人気ですよ!カラフルな色使いで貴方のオリジナルな作品が出来上がります♪

■3月4日(日)
「型にはまらない
ブリザーブド
フラワー体験」
■参加費: 600円
■定員: 10名
(小学生の方は保護者同伴)



■3月25日(日)
「エコクラフト~
魚のマスクット」
■参加費: 300円
■定員: 20名

牛乳パックや古紙から再生された紙バンドで作るリサイクル工作。誰にでも楽しく作れる手軽な魅力の魚のマスクットです。当日は、野中先生の作品もご紹介いたします♪

企画展示

3月1日(木)~3月31日(土)「川内川大洪水被災地支援活動報告展」

紫江

水環境館

〒802-0007 北九州市小倉北区船場町1番2号 TEL・FAX.093-551-3011 <http://www.qbiz.ne.jp/cecera/>
休館日: 年末・年始 ※入館料は頂いておりません。

発行・編集: 北九州市建設局下水道河川部水環境課 〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号 TEL.093-582-2491/FAX.093-561-5758